

I 実践

1 研究主題

人権を尊重しようとする心情が深まる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は、「夢をもち 共に学び きたえ合う 心豊かな生徒の育成」を教育目標に掲げて「熱中・感動・夢づくり」を合い言葉に教育活動に取り組んでいる。めざす生徒の姿は、「勤勉」「誠実」「健康」を掲げ、とりわけ「誠実」については「他者を理解し、思いやりのある生徒」としている。これを受けて、《豊かな心プラン【徳】》では、人権教育を柱に、「自他を尊重し、思いやりをもって接することのできる生徒の育成」「自己有用感をもち、互いに高め合うことのできる生徒の育成」を目指した取り組みを『平沢中・育成プラン』に位置付けている。

本校は、全校生徒134人の小規模校であり、生徒同士の関係が密であると共に、先輩・後輩の間柄も和やかである。反面、小学校からの人間関係が大きく変わることがないために、不用意な発言や態度がもとで、一度関係が崩れると修復が困難になる傾向も見られる。考えや立場の違う相手に対し寛容になれない原因としては、核家族、少子化家庭が進み、テレビゲームやメールに依存して、直接的に人との関わりを学ぶ機会が少なくなっていることが一因と思われる。これによって、相手の気持ちを推し量る想像力が育っていないのではないかと考える。

そこで、「相手の身になって考え、相手のよさを見つける」「お互いに協力し合って自分の力を地域社会や学年学級に役立てようとする」「学校・学年・学級が一人一人の生徒にとって存在感を実感できる」態度を養うことを重点目標として、本主題を設定した。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

(3) 研究内容

ア 職員研修の充実

イ 学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通して、人権尊重の精神を育む。

ウ 人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営を行う。

2 実践内容

(1) 生徒理解を深めるための職員研修の充実

ア スクールカウンセラー指導によるSGE(構造的グループエンカウンター)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)の実践方法を受講した。各クラスで実践し校内授業公開する計画をも立てた。(H29. 7. 27)

イ 先進校等調査研修視察

・静岡県三島市中郷西中学校研究発表会(研究主題「相手の良さを発見し、自分の良さに気づく人権教育」)を視察した。生徒理解に視点をおいた人権教育の研究発表で、職員の意識改革を目的とした研修から、生徒や保護者、地域住民へと波及させ、双方向的な学びへと発展させていく研修のあり方が、大変参考になった。(H29. 10. 12)

・静岡県牧之原市菊川市学校組合立牧之原中学校(研究主題「自他を尊重し、高め合う生徒の育成」)を視察した。教師が生徒に「関わる」ためには、関わる必要性が必要であり、その必要性を準備することは重要な教材研究のひとつであることに気づかされた。また、生徒同士の関わりで相手の新しい一面を発見させる場の設定を仕掛けていくことも重要であることを学んだ。(H29. 11. 15)

(2) 学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通じた実践

ア 生活委員会を中心に、「あいさつ運動」や「さわやかマナーアップ運動」を1年間を通して行った。特定の人だけでなく、誰にでも明るく元気にあいさつができるように朝の登校時間を中心に取り組んだ。

イ JRC委員会を中心として仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動に、部活動単位や有志など、毎回多くの生徒が積極的に参加した。人の役に立つ活動を通して、社会奉仕に伴う喜びを知り、社会への奉仕の意義について考えを深めることができた。



毎朝のあいさつ運動の様子



子ども夏祭り



敬老会で演奏する吹奏楽部、お茶を出す生徒たち



- ウ 人権作文や人権メッセージ等に応募し、人権について考える機会とした。
エ 友人関係の実態把握、生活アンケート調査やQ-Uテストの分析・活用を行った。

(3) 各教科における実践

ア 実践例 学び合い 1～3年

(ア) ねらい 自己肯定感を育てると共に、他者の存在を論理的にも情緒的にも受容することができる。

(イ) 内容

学習課題に対する自分の考えや意見を伝えたり、お互いの考えや方法の良さに気付いたりすることを大切にする。自他の解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返り、互いに学び合う。

(ウ) 活動の様子

グループ学習など、協力して活動することを通して「学び合う仲間」であることを実感できる雰囲気が醸成され、お互いの考えや方法の良さに気付くことができた。

(4) 学級活動における実践

ア 実践例 1 学年

(ア) 単元名 「3つの話し方を意識して会話しよう！」

(イ) ねらい ロールプレイを通して、相手の気持ちを考えながらも、自分の言いたいことを伝えるための話し方について体験的に理解することができる。

(イ) 内容

自分の意見を主張しない話し方や、攻撃的な話し方、優しく自分の意見を言う話し方を体験することで、そのように話す人の気持ちや、言われた人の気持ちを考える。

(ウ) 活動の様子

生徒たちは3パターンの話し方をロールプレイすることで、それぞれの話し方について相手にどのような印象を与えるのか実感することができた。また、生徒たちは普段の生活を振り返って、自分の言動をどのようにしたら、相手の考えを尊重しつつ、自分の意見を伝えられるかを考える機会をもつことができた。

(5) 総合的な学習

ア 実践例 1 エコサイクル（平沢中学校学区内の再生資源の回収活動）1～3 学年

(ア) 目的 地域での資源回収活動を通して、働くことの意義について考えさせ、奉仕の心や他の人と協力し合う態度を育てる。

(イ) 内容 グループでの回収活動、積み込み、仕分け等

(ウ) 活動の様子

JRC 委員会の計画のもと、異学年グループごとに地域を回り、再生資源の回収活動に取り組んだ。また、生徒会が中心となり、エコサイクルの収益金の一部と文化祭での募金を合わせて北九州北部豪雨被災地へ支援を送った。この活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度を育てることができた。

イ 実践例 2 宿泊学習における感謝の集い 2 学年

(ア) 目的 自分の生き立ちや大切に育てられたことを知ること、育ててくれた人へ感謝し、よりよく生きようとする態度を養う。

(イ) 内容 保護者からの手紙を静かに読み、保護への返信を書く。

(ウ) 活動の様子

宿泊学習の夜、キャンドルの灯りのみの中で、事前に用意しておいた保護者からの手紙をサプライズで渡し、静かに読ませた。普段の生活では話さないような愛情のこもった内容に多くの生徒が号泣した。これをきっかけとして宿泊学習後のクラスの雰囲気が温かな雰囲気へと大きく変わった。



ロールプレイによる SST



エコサイクルの様子



宿泊学習の感謝の集い

3 成果

- ・本校の特徴として異学年でグループを組み活動する機会が多い。上級生は下級生に様々な配慮をしながら活動し、その様子を見て、下級生は上級生をお手本に行動を学習する、という体制ができている。学び合いながら他者を理解し、人を大切にする気持ちが育っていると考えられる。
- ・地域と密着した継続的な体験活動では、周囲の方々の励ましやねぎらいの言葉をいただき、地域への愛着と共に自己有用感を満たすことにつながっている。

II 今後の課題

先進校の視察により、生徒理解の視点からの人権教育を学んだ。この取り組みを参考にし、一人一人を大切に、自尊感情を高めるための施策を充実させていきたい。また、同じ環境で生活している仲間への思いやりはもとより、外国人、障害者、高齢者等への人権意識啓発も図りたい。